

中期経営計画2020-2024

大阪高速鉄道株式会社



はじめに

大阪モノレールは、1990年6月に千里中央～南茨木間の営業を開始して以来、5回にわたる延伸開業を経て、現在の営業区間となり、彩都「国際文化公園都市」を含む沿線地域と大阪国際空港及び他社鉄道路線とを結ぶ公共交通機関として、本年（2020年）6月には開業30年を迎えることになりました。

この間、1997年の大阪モノレール線の全線開業以降、当社の経営状況は徐々に改善し、2004年度には債務超過を解消し、2015年度には累積損失を解消するに至りました。

このような中、2017年3月には、お客さまに1ランク上のサービスを提供するため「大阪モノレール中期経営計画〈2017-2021〉」を策定し、安全・安定運行やサービスの向上に向けた車両や駅舎などの更新投資を進めてきたところです。

しかし、その一方で、2018年6月に発生した大阪府北部地震により、施設の一部が被災したことから、耐震性の強化、早期復旧に向けた仕組みづくりなど、これまで以上の安全対策が不可欠となっています。

また、訪日外国人の著しい増加に伴い、大阪にも多くのお客さまが訪れられる状況のなか、2025年の大阪・関西万博の開催や吹田市の万博記念公園駅前でのアリーナ建設構想も踏まえ、国内外の来阪者と大阪モノレールの利用者への新たなサービスも今後、必要となってまいります。

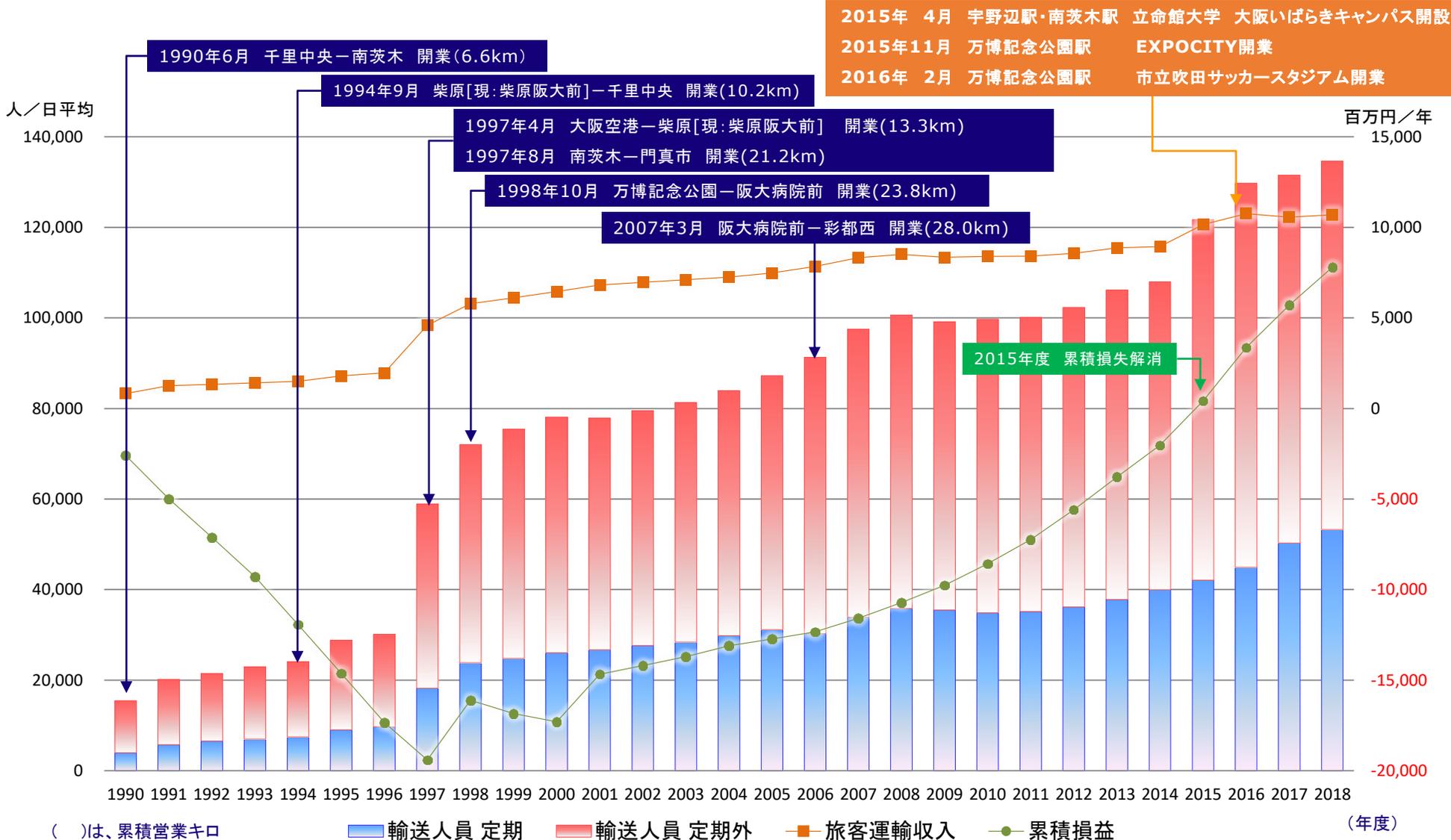
こうした環境の変化に対応するため、当社では、門真市から（仮称）瓜生堂間（南伸）が開業する2029年を見据えながら、大阪・関西万博により経済活動などが活発化する2025年に向け、前「中期経営計画」を見直すこととし、「安全の徹底」、「サービスの向上」、「コンプライアンス意識の向上」の3つの基本戦略と、南伸開業と万博開催の絶好の機会を確実にとらえるため「沿線需要の拡大」、「広域来訪者の誘引」、「鉄道ネットワークの拡充」という3つの成長戦略を「中期経営計画2020-2024」の柱として事業を展開してまいります。

持続可能な成長のために、ご利用いただく皆さまのニーズにスピード感を持って対応し、お客さまや地域から、信頼され、喜ばれ、愛される大阪モノレールをめざしてまいります。

1. 事業の変遷	1
2. 前「中期経営計画」の3カ年<2017-2019>の振り返り	2
3. 前「中期経営計画」の見直しの背景と新たな課題	5
4. 「中期経営計画2020-2024」の全体像	6
5. 「中期経営計画2020-2024」：3つの基本戦略と3つの成長戦略	7
6. 大阪モノレールグループの方向性	18
7. SDGs達成への貢献	19
8. 財務目標	20
9. 「中期経営計画2020-2024」の実行にあたり	22

1. 事業の変遷

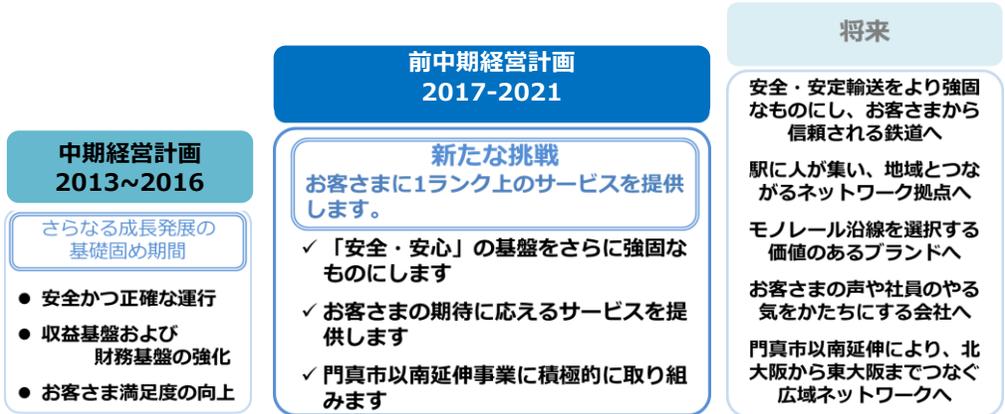
【年度別輸送人員と旅客運輸収入及び累積損益の推移】



2-1. 前「中期経営計画」の3カ年<2017-2019>の振り返り【概要】

経営理念・将来の目指す姿

経営理念 ・ 安全な鉄道 ・ 人にやさしい鉄道 ・ 地域に奉仕する鉄道



前「中期経営計画」の「4つの柱」

新たな挑戦

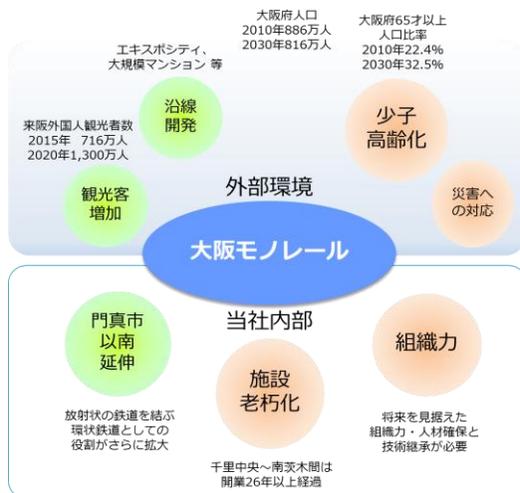
前中期経営計画の4つの柱

- 1 安全・安心への弛まぬ取り組み
- 2 輸送サービスの向上とさらなる鉄道ネットワーク拡充
- 3 沿線の魅力向上
- 4 将来を見据えた人・組織づくり

当社が目指す5年後の姿

- 安全**
安全・安定輸送をより強固なものにし、お客さまから信頼される鉄道
- サービス**
多様なニーズに耳を傾け1ランク上のきめ細やかなサービスにより、お客さまに喜ばれる鉄道
- 地域連携**
地域との積極的な交流や情報発信などを通じて地域に愛される鉄道

前「中期経営計画」策定時に見込まれた環境の変化



1 安全・安心への弛まぬ取り組み

安全・安定輸送をより強固なものとするため、重点的に設備投資や改修、新技術の導入に取り組みます。
また、災害や事故発生時の対応力強化を図り、お客さまの信頼を確かなものにします。

2 輸送サービスの向上とさらなる鉄道ネットワーク拡充

大阪国際空港や他社鉄道につながる強みを活かし、すべてのお客さまに円滑な移動やきめ細やかなサービスを提供します。
また、門真市以南延伸事業を積極的に推進します。

3 沿線の魅力向上

大阪モノレール沿線に住まう、学ぶ、働くことが「大きな魅力」となるよう、地域住民・学校・企業等との積極的な交流や地域情報の発信を行い、沿線の魅力を高めます。

4 将来を見据えた人・組織づくり

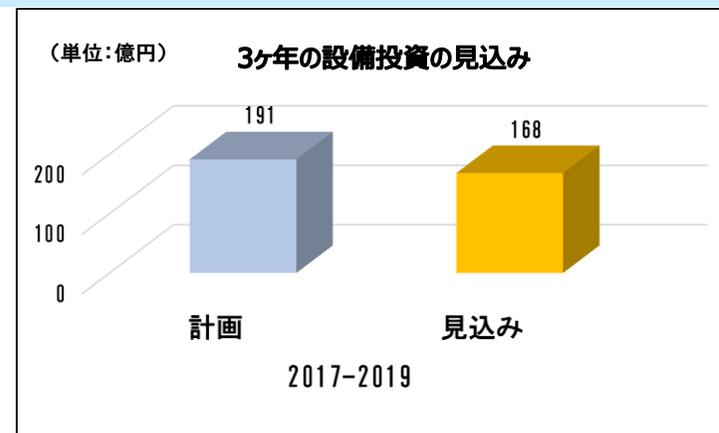
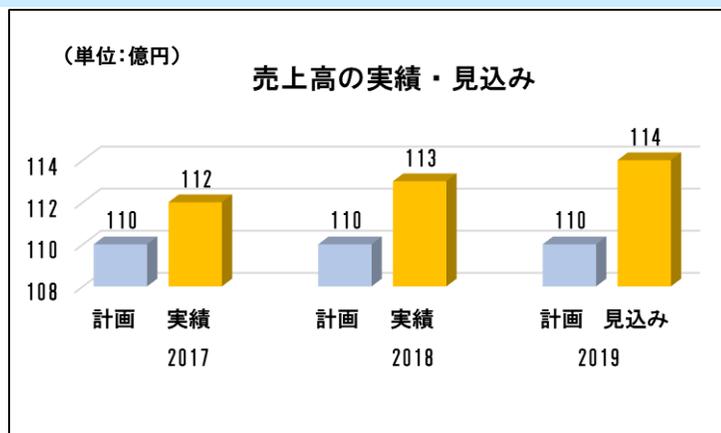
これまで蓄積してきたノウハウを確実に次世代に継承するとともに、技術やサービスの品質をさらに向上させるため、社員のスキルアップや組織体制を強化します。
また、すべての社員が働きやすい職場環境づくりを進めます。

「大阪モノレール中期経営計画2017-2021の資料から抜粋」

2-2. 前「中期経営計画」の3カ年<2017-2019>の振り返り 【数値目標】

【評価】

- 売上高は、沿線人口の増加や大阪国際空港の利用者増などで、計画を上回る売上高を達成。
 - ⇒ 2017年度：112億円（実績） 2018年度：113億円（実績） 2019年度：114億円（見込み）
- 可動式ホーム柵などの安全投資は計画どおり実施しています。投資計画191億円に対して168億円達成見込み。
 - ⇒ 2017年度：23億円（実績） 2018年度：53億円（実績） 2019年度：92億円（見込み）
- 売上高人件費率は、概ね21%で推移しており、計画を達成。



（参考） 前「中期経営計画」の数値目標

売上高	設備投資額	売上高人件費率
毎年度110億円以上	2017年度～2021年度 290億円 安全投資：170億円 サービス投資：120億円	25%以下

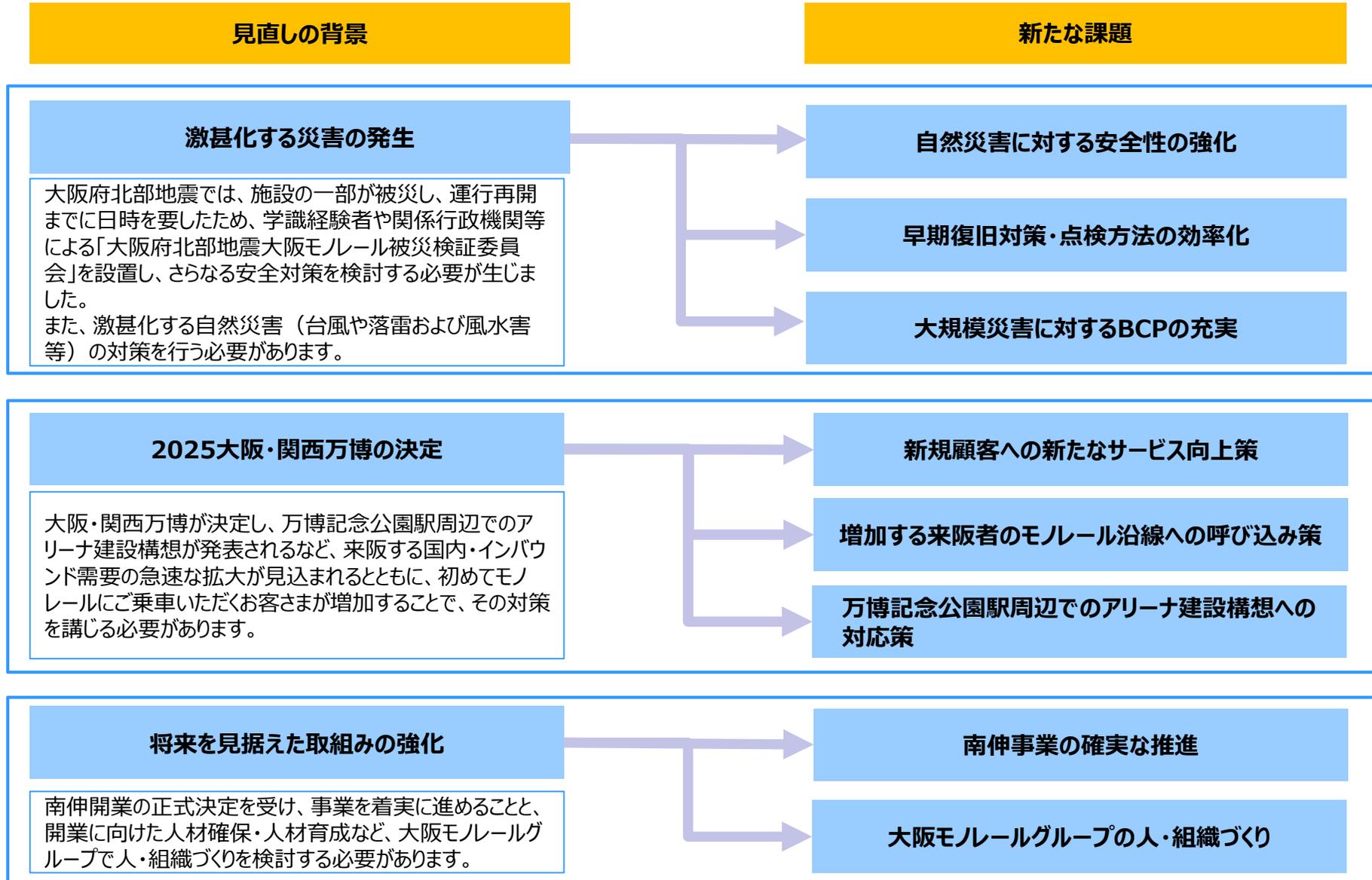
2-3. 前「中期経営計画」の3カ年<2017-2019>の振り返り 【取組目標】

【評価と実施内容】

- 安全投資は、計画どおり実施しています。3000系（新型）車両8編成の更新時期は変更しています。
- 輸送サービスの向上は、駅リニューアルや兼業事業の充実など順調に実施しています。
- 鉄道ネットワークの拡充は、2019年3月に南伸区間の特許を取得し、2029年の開業に向けて手続きを予定どおり進めています。

4つの柱	主な取組み	評価	実施内容（2017-2019）
安全・安心への 弛まぬ取組み	新型車両へ更新	▲	3000系車両を1編成増備。更新の8編成は計画変更。
	既存車両の改造	○	13編成のうち、11編成完了。
	可動式ホーム柵の設置	○	18駅のうち、8駅設置。
	エレベーターの更新	○	2017年度～2019年度で5駅更新し、更新対象駅7駅すべて実施。
	情報伝達の充実	○	各駅に無料Wi-Fi設置。外国人向けHPリニューアル完了。 異常時の多言語案内開始。広域鉄道路線図の英語版作成。
	大規模災害・事故等への対応力強化 安全・安心を支える人材づくり	○	大規模災害訓練実施。 事故・災害想定シミュレーターの導入による運転士の異常時対応訓練体制の確立。
輸送サービスの 向上と さらなる鉄道ネット ワークの拡充	乗換利便性の向上	○	混雑緩和を目的としたダイヤ改正実施。
	さらなる鉄道ネットワーク拡充	○	南伸区間の特許取得。
	多様な運賃体系	○	ICOCA定期発売開始。定期運賃割引率の拡大。遠距離区間の普通運賃値下げ。 高齢者優遇の企画乗車券、大阪周遊パスや大阪万博50周年企画乗車券発売。
	駅リニューアル 兼業事業の充実	○	18駅全ての駅で快適性向上リニューアル完了。 千里中央駅でのカフェ開店、蛍池駅で商業ゾーン開店、南茨木駅でコンビニ開店。
沿線の魅力向上	地域の美化活動やマナー啓発活動の推進	○	地域のみなさと協同で駅周辺の美化活動実施。
	地域交流の拠点づくり	○	沿線市や沿線施設等との連携イベントなどを実施。
	子育てしやすい環境づくり	○	万博記念公園駅に授乳室を設置。
将来を見据えた 人・組織づくり	大阪モノレールグループ全体での効率的な組織運営	○	役割分担の再点検とグループ全体での組織体制の見直し着手。
	働きやすい職場環境づくり	○	再雇用制度および育児休暇制度の拡充。
	門真市以南延伸に向けた人材獲得と育成	○	計画的雇用と次世代を担う人材の採用・育成。
	機動的なコストマネジメント	○	各種コストの適正マネジメントを継続して実施。

3. 前「中期経営計画」の見直しの背景と新たな課題



4. 「中期経営計画2020-2024」の全体像

2029年の南伸開業など、長期的な視点も見据えながら、2025大阪・関西万博開催（2025年4月）に向けて、取り組むべき課題を確実に実行するため、2020年4月～2025年3月を期間とした中期経営計画2020-2024を策定することとしました。鉄道会社として常にめざすべき課題への対応を基本戦略として取りまとめるとともに、今後の人口減少や万博などの広域的なイベントへの対応を成長戦略として取りまとめました。

取り組むべき課題

- ◆ 自然災害対策
被災検証委員会での提案内容の実施および早期復旧対策
- ◆ 国内・インバウンド需要の拡大へ向けたサービスの向上とプロモーションの強化
- ◆ 2025年大阪・関西万博の開催に伴う顧客呼び込み策の実施
- ◆ アリーナ建設構想に向けた対応
- ◆ 南伸事業の推進
- ◆ 社員の意識改革と人材育成

基本戦略

安全の徹底

安全投資の確実な実施
自然災害対策の実施

サービスの向上

基本設備の充実
1ランク上のきめ細やかなサービスの提供

コンプライアンス意識の向上

ルール・マニュアルの徹底と研修の充実

成長戦略

沿線需要の拡大

駅を中心としたにぎわいづくり・アクセス改善
沿線の学校・企業・自治体との連携による街づくり

広域来訪者の誘引

プロモーションを通じた沿線の魅力発信
国内外向けプロモーションの強化

鉄道ネットワークの拡充

ネットワーク機能の強化・街づくりの促進

将来像のイメージ

お客さま視点

- 信頼できる会社
- 住みたくなる沿線
- 訪れたくなる沿線

社員視点

- 働きがいのある会社
- 成長する会社

5. 「中期経営計画2020-2024」：3つの基本戦略と3つの成長戦略

基本戦略1： 安全の徹底	基本戦略2： サービスの向上	基本戦略3： コンプライアンス意識の向上	成長戦略1： 沿線需要の拡大	成長戦略2： 広域来訪者の誘引	成長戦略3： 鉄道ネットワークの拡充
-------------------------	-------------------	-------------------------	-------------------	--------------------	-----------------------

SDGs目標

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

12 つくる責任
つかう責任

基本戦略1-1. 安全・安定運行のための弛まぬ取り組み

安全投資の確実な実施

可動式ホーム柵を全駅に設置し、更新時期を迎えた車両や設備の最新化を行ってまいります。

これらの安全投資を確実に進め、故障リスクの軽減を図り、安全・安定運行確保に努めてまいります。

また、安全マネジメント会議で決定した安全重点施策を実行してまいります。

これらにより、事故・重大インシデント「ゼロ」をめざしてまいります。

新設・更新設備	2020	2021	2022	2023	2024
可動式ホーム柵	4駅	3駅	3駅		
新型車両への更新	1編成	3編成	4編成		
昇降機（更新）	2か所	2か所	●	●	●
ATC/TD装置	2か所				
変電所電力設備	万博	万博	万博		南茨木

①可動式ホーム柵の全駅設置

ホームからの転落を防ぐため、2022年度までに設置を完了します。

- 2020年度 大日、少路、南摂津、宇野辺駅
- 2021年度 柴原阪大前、阪大病院前、摂津駅
- 2022年度 沢良宜、豊川、公園東口駅



②3000系（新型）車両への更新

車両故障のリスク軽減、お客さまサービスの向上、メンテナンスの省力化を実現した新型車両に2022年度までに8編成を更新します。



③最新設備への更新

昇降機、ATC/TD装置、駅務機器、変電所電力設備など更新時期を迎えた設備を順次最新化します。



5. 「中期経営計画2020-2024」：3つの基本戦略と3つの成長戦略

基本戦略1： 安全の徹底	基本戦略2： サービスの向上	基本戦略3： コンプライアンス意識の向上	成長戦略1： 沿線需要の拡大	成長戦略2： 広域来訪者の誘引	成長戦略3： 鉄道ネットワークの拡充
-------------------------	-------------------	-------------------------	-------------------	--------------------	-----------------------

SDGs目標

9 産業と技術革新の基盤をつくろう	11 住み続けられるまちづくりを

基本戦略1-2. 自然災害に対する安全性及び回復力の向上

自然災害対策の実施	2020	2021	2022	2023	2024
分岐橋制震化	設計	1橋	2橋		
車両部品落下防止対策	実施	実施	実施	実施	
碍子の落下防止対策	実施				
地震被災度推定システムの構築	地震計増設	システム導入			
点検困難箇所の対策		設計	2橋	2橋	

地震、浸水、強風、落雷などの自然災害に対し、安全性の向上や早期復旧対策に取り組んでまいります。

①地震対策

- ・耐震性・安全性の向上
大阪府北部地震と同程度の地震では損傷せず、平常運転が継続できるような耐震化や、部品の落下防止などの安全性向上に取り組めます。
- ・回復力の向上
施設の被災状況を速やかに把握し点検箇所を重点化することや、点検困難箇所の対策を行うことで地震発生後の回復力を向上させます。

②BCP(事業継続計画)

BCPの策定、運用について検討を重ね、維持・早期復旧に向けて、さらなる充実を図っていきます。

③その他自然災害対策

止水板の設置、風速計の増設、避雷針の増設、瓜生堂車庫の水害対策に取り組めます。



地震発生後の
工作車による
点検の様子

5. 「中期経営計画2020-2024」：3つの基本戦略と3つの成長戦略

基本戦略1：
安全の徹底

基本戦略2：
サービスの向上

基本戦略3：
コンプライアンス意識の向上

成長戦略1：
沿線需要の拡大

成長戦略2：
広域来訪者の誘引

成長戦略3：
鉄道ネットワークの拡充

SDGs目標

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

12 つくる責任
つかう責任

基本戦略2-1. 輸送サービスの向上

基本設備の充実

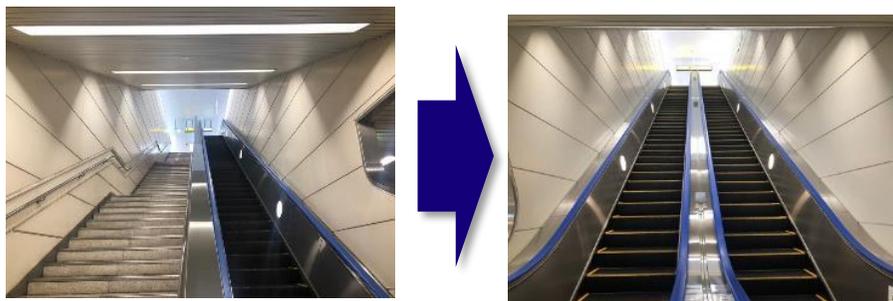
利用者にやさしい駅設備やサービスの充実を図ってまいります。
また、拡大する国内・インバウンド需要に対応するため、必要な基本設備を充実し、観光客の満足度向上をめざしてまいります。

	2020	2021	2022	2023	2024
昇降機（増設）	検討		●	●	
情報提供の充実	案内モニター 車両内Wi-Fi 多言語通訳	駅案内 アプリ導入	●	●	●
駅情報案内 リニューアル	基本設計	詳細設計	3駅	3駅	2駅

① バリアフリーのさらなる推進

病院アクセス駅・接続駅での下りエスカレーターを検討します。

【実施イメージ】



② 情報提供の充実（高齢者・インバウンドなど）、駅情報案内リニューアル

利用者や海外（インバウンド）向けの迅速な情報提供を実施します。

- 駅デジタルサイネージの活用
- 車両内Wi-Fiの整備
- 初めて利用される方にも分かりやすいサインシステムの充実

Info on extra train service

Today's event

"American Football Game"

- ◆ Osaka Monorail Line 11:00am-2:00pm
4:00pm-5:00pm
Trains will be operating every 3-10 minutes.
- ◆ Saito Line 11:00am-2:00pm
Trains will be operating every 10 minutes.

5. 「中期経営計画2020-2024」：3つの基本戦略と3つの成長戦略

基本戦略1：
安全の徹底

基本戦略2：
サービスの向上

基本戦略3：
コンプライアンス意識の向上

成長戦略1：
沿線需要の拡大

成長戦略2：
広域来訪者の誘引

成長戦略3：
鉄道ネットワークの拡充

SDGs目標



基本戦略2-2.付加価値の高いサービスの提供

1ランク上のきめ細やかなサービスの提供

お客さまとのコミュニケーションの充実を図り、ニーズを把握するとともに、駅構内を活用して様々なイベントを実施し、さらなるサービスの向上に努めてまいります。また、社員研修を充実し、継続して、様々な技術の習得にも取り組んでまいります。

①お客さまニーズへの対応



授乳室の設置



傘シェアリングサービスの設置



宅配便ロッカーの設置

②イベントの実施



フォトスポット（彩都西駅構内）



絵馬奉納（万博記念公園駅構内）

③社員研修の充実

- ・接客コンテスト
- ・サービス介助士取得
- ・交通サポートマネージャー研修
- ・手話技能の習得、英語研修



接客コンテスト

5. 「中期経営計画2020-2024」：3つの基本戦略と3つの成長戦略

基本戦略1：
安全の徹底

基本戦略2：
サービスの向上

**基本戦略3：
コンプライアンス意識の向上**

成長戦略1：
沿線需要の拡大

成長戦略2：
広域来訪者の誘引

成長戦略3：
鉄道ネットワークの拡充

SDGs目標

4 質の高い教育を みんなに	12 つくる責任 つかう責任

基本戦略3. コンプライアンス意識の向上

ルール・マニュアルの徹底と研修の充実

ルール、マニュアルなどの徹底のため、研修、訓練を通じてノウハウの伝承を行い、あわせて環境の変化に照らしたルールやマニュアルの見直しを行ってまいります。

また、コンプライアンス意識の向上を図るため、各種研修を行うとともにIT管理体制の充実を図ってまいります。

① 法令遵守の徹底

意識向上のためコンプライアンス研修およびeラーニングを行い、企業としての社会的責任を果たします。

② 運転技能の向上や接客マナーの向上

お客さまが安全・安心・快適にご利用できるよう、運転技能の向上および接客スキルが向上できるよう、研修を実施します。

また、さらなるスキルアップのため、自社で動力車操縦者免許が取得できる体制を構築します。

③ IT管理体制の充実

セキュリティポリシーを遵守するとともに、環境の変化に応じたIT管理体制を充実します。

④ 事故や異常が発生した場合の対応強化

様々な事態を想定し、事故や異常が発生した場合に対処できるよう、毎年反復して訓練を実施します。



5. 「中期経営計画2020-2024」：3つの基本戦略と3つの成長戦略

基本戦略1：
安全の徹底

基本戦略2：
サービスの向上

基本戦略3：
コンプライアンス意識の向上

成長戦略1：
沿線需要の拡大

成長戦略2：
広域来訪者の誘引

成長戦略3：
鉄道ネットワークの拡充

SDGs目標

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

成長戦略1-1：駅ナカ・駅ソトでの利便性向上

駅を中心としたにぎわいづくり、アクセス改善

駅を、人が集い、にぎわい、楽しめる「温かい空間」へ、充実を図ってまいります。

また、お客さまの多様なニーズを把握し、駅ナカや駅ソトで新ビジネスを展開してまいります。

	2020	2021	2022	2023	2024
駅ナカビジネスの展開	2か所	2か所	2か所	1か所	1か所
駅へのアクセス強化	検討実施	●	●	●	●

① 駅ナカビジネスの展開例



コンビニ拡充



商業ゾーン展開



店舗展開 千里中央駅構内カフェ

② 駅へのアクセス強化を検討

モノレール宇野辺駅とJR茨木駅のアクセス向上と沿線大学や商業施設との連携を図りながら、ラストワンマイルサービスの可能性などMaaSへの展開について検討を深めます。



5. 「中期経営計画2020-2024」：3つの基本戦略と3つの成長戦略

基本戦略1：
安全の徹底

基本戦略2：
サービスの向上

基本戦略3：
コンプライアンス意識の向上

成長戦略1：
沿線需要の拡大

成長戦略2：
広域来訪者の誘引

成長戦略3：
鉄道ネットワークの拡充

SDGs目標

4 質の高い教育をみんなに

17 パートナシップで目標を達成しよう

成長戦略1-2：連携による街づくり

沿線の学校・企業・自治体との連携による街づくり

沿線施設・地域の学校・企業・自治体とつながりを密にし、魅力ある街づくり、にぎわいづくりを積極的に取り組むことによって、沿線の魅力を高め、街づくりに貢献してまいります。

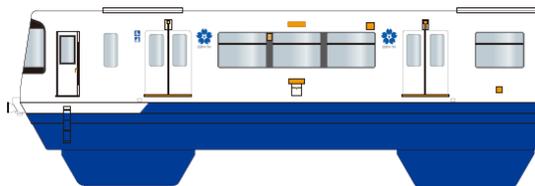
①産学官との連携

自治体・企業・大学と連携して、沿線の魅力を向上します。



②周辺施設との連携

万博50周年事業と連携してEXPO'70基調のデザインラッピング車両を運行します。



EXPO'70基調
デザインラッピング
車両運行

③商業施設との連携

千里中央駅を中心として事業展開する企業と周年事業の連携を行い、沿線を活性化します。



(エリア協業のシンボルロゴ)

商業施設開設
50周年

5. 「中期経営計画2020-2024」：3つの基本戦略と3つの成長戦略

基本戦略1：
安全の徹底

基本戦略2：
サービスの向上

基本戦略3：
コンプライアンス意識の向上

成長戦略1：
沿線需要の拡大

成長戦略2：
広域来訪者の誘引

成長戦略3：
鉄道ネットワークの拡充

SDGs目標

3 すべての人に健康と福祉を

17 パートナリシップで目標を達成しよう

成長戦略2-1：外出機会の創出

プロモーションを通じた沿線の魅力発信

SNSなどを活用し、モノレールの沿線や結節鉄道の近隣施設の魅力を発信してまいります。

回遊性を高める方策の実施と後押しする企画乗車券を発売することで、外出機会を創出してまいります。

①沿線魅力施設の情報発信の強化

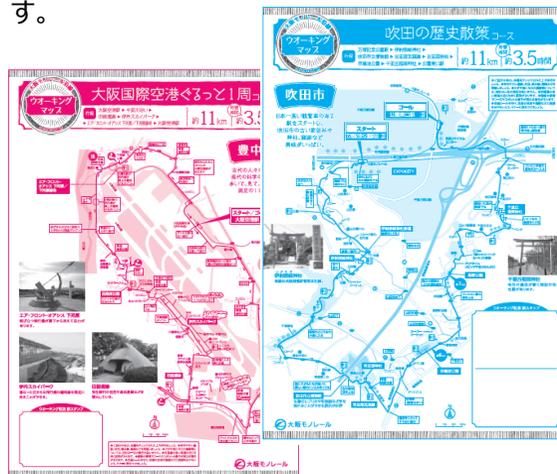
SNSなどを活用し、沿線施設の魅力を発信します。



万博記念公園の四季折々をPR

②回遊性の向上

スタンプラリーなど回遊性を高める方策を実施します。



おでかけマップ

③企画乗車券の拡充

回遊性を高める後押しをするために、お得な乗車券を発売します。



5. 「中期経営計画2020-2024」：3つの基本戦略と3つの成長戦略

基本戦略1：
安全の徹底

基本戦略2：
サービスの向上

基本戦略3：
コンプライアンス意識の向上

成長戦略1：
沿線需要の拡大

成長戦略2：
広域来訪者の誘引

成長戦略3：
鉄道ネットワークの拡充

SDGs目標

9 産業と技術革新の基盤をつくろう	11 住み続けられるまちづくりを
	

成長戦略2-2：国内外の観光需要の取込み

国内外向けプロモーションの強化

国内向け、海外向けの広報活動を強化し、モノレール沿線の魅力を発信してまいります。
駅構内等で魅力あるプロモーションを実施し、広域来訪者の獲得をめざしてまいります。

①国内外向け情報発信の強化

・沿線施設PR強化

国内外の旅行博で万博記念公園（太陽の塔、自然文化園、日本庭園、国立民族学博物館、EXPOパビリオンなど）や大阪国際空港等の魅力を発信します。

・資産を活用したPR強化

イベント列車や駅を活用したプロモーションを行い、国内外に発信します。また、AR等を活用し、「ワクワク・ドキドキ感」のある駅づくりをめざします。

海外旅行博でのPR



ARを活用したPRイメージ



②アリーナ建設構想に向けた対応

2025年の万博記念公園駅前のアリーナ建設構想を受け、必要な投資を検討し実施します。



※出所 大阪府発表資料

5. 「中期経営計画2020-2024」：3つの基本戦略と3つの成長戦略

基本戦略1：
安全の徹底

基本戦略2：
サービスの向上

基本戦略3：
コンプライアンス意識の向上

成長戦略1：
沿線需要の拡大

成長戦略2：
広域来訪者の誘引

成長戦略3：
鉄道ネットワークの拡充

SDGs目標



成長戦略3-1：在来鉄道路線とのネットワーク形成

ネットワーク機能の強化

新たに4路線（大阪メトロ長堀鶴見緑地線・JR片町線（学研都市線）・近鉄けいはんな線・近鉄奈良線）と結節し、在来鉄道10路線とネットワークを形成してまいります。

① 利便性の向上

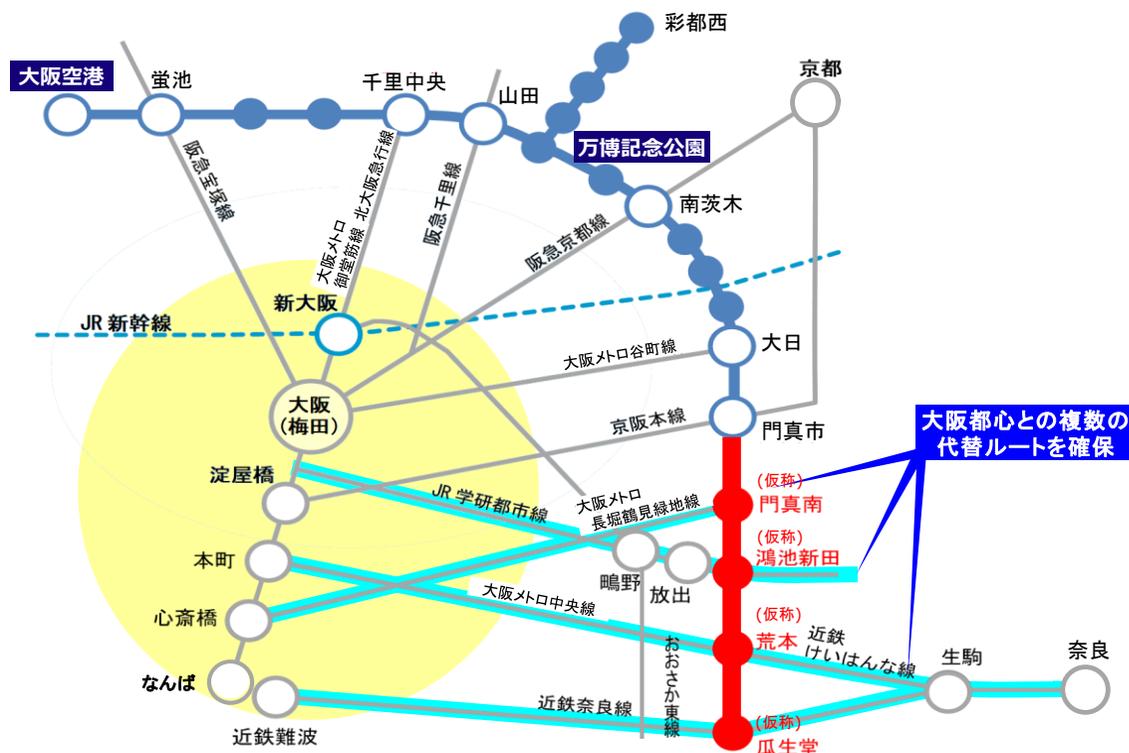
大阪モノレール沿線から奈良方面への利便性が向上します。また、大阪空港駅や万博記念公園駅の大規模施設へのアクセス利便性、速達性・乗換回数減少にもつながります。

② 環境負荷の軽減

鉄道ネットワークの拡充等により、公共交通の利用が促進されることから、環境負荷の軽減につながります。

③ 代替ルートが増加（交通リダンダンシーの確保）

在来鉄道10路線とネットワークを形成することで、事故等により路線が不通となった場合に代替ルートの確保が図られます。



5. 「中期経営計画2020-2024」：3つの基本戦略と3つの成長戦略

基本戦略1：
安全の徹底

基本戦略2：
サービスの向上

基本戦略3：
コンプライアンス意識の向上

成長戦略1：
沿線需要の拡大

成長戦略2：
広域来訪者の誘引

成長戦略3：
鉄道ネットワークの拡充

SDGs目標



成長戦略3-2：延伸区間の沿線地域活性化

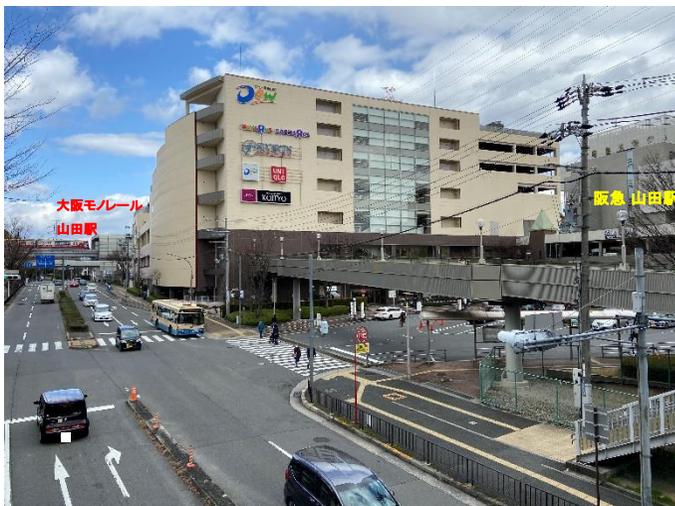
街づくりの促進

延伸事業は沿線地域の活性化など、街づくりの発展に寄与するもので、駅を中心としたにぎわいづくりへの貢献や、兼業事業の拡大も検討してまいります。

① 駅周辺のにぎわいづくりへの貢献

結節する駅とのアクセス改善により、利用者の増加を図るとともに、駅周辺のにぎわいづくりに貢献します。

大阪モノレール山田駅の事例



② 駅と隣接ビルの一体的利用等の検討

お客さまの利便性向上に向け、駅と隣接するビルが一体となった利用などを検討します。

多摩都市モノレール立川北駅と商業ビルが一体となった利用例



6. 大阪モノレールグループの方向性

大阪高速鉄道(株)は、安全・安定輸送を中心にモノレールの設備や運行面を、大阪モノレールサービス(株)は、駅を中心としたお客さまサービスなどソフト面や駅ナカ事業などの事業展開を担っております。

大阪高速鉄道(株)と大阪モノレールサービス(株)が一体となって、中期経営計画を実行してまいります。

		大阪高速鉄道(株)	大阪モノレールサービス(株)
基本戦略	安全の徹底	安全・安定運行のための投資を積極的に行うとともに、保守や修繕なども確実に実施してまいります。	急病人や異常時の対応などの駅を中心に、お客さまに安心してご利用いただけるよう取り組んでまいります。
	サービスの向上	初めての方にもスムーズにご利用いただけるよう設備の改善や分かりやすく情報を提供してまいります。	お客さまとのコミュニケーションや清掃、機器のメンテナンスなどを通じ、駅で付加価値の高いサービスを提供してまいります。
	コンプライアンス意識の向上	企業統治の質を高めて、企業の社会的責任を果たしていけるよう取り組んでまいります。	
成長戦略	沿線需要の拡大	街の魅力を発信し、自治体・企業・大学・周辺施設などと連携しながら、街づくりに貢献してまいります。	駅ナカビジネスを展開することで、魅力ある駅づくりを行い、駅を中心とした街づくりに貢献してまいります。
	広域来訪者の誘引	国内旅行者やインバウンド需要を呼び込むプロモーションを展開し、利用者の増加に努めてまいります。	駅での様々な取り組みやイベントを通じて、集客力向上に努めてまいります。
	鉄道ネットワーク拡充	南伸事業を着実に進めてまいります。	駅ナカビジネスのノウハウを蓄積し、南伸区間でも新たなビジネスを展開してまいります。
人・組織づくり	働きやすい職場環境づくり 南伸開業に向けた人材獲得と育成	働き方改革を進め、ワークライフバランスの向上をめざし、働きやすい職場環境づくりに努めてまいります。南伸開業に向けて、人材を確保するとともに、成長する企業に必要な「新たな挑戦」ができる人材育成を進めてまいります。また、女性の活躍を推進してまいります。これにより、働きがいのある、成長する会社へ変わってまいります。	

7. SDGs達成への貢献

大阪モノレールグループでは、2030年に向けて、貢献できるように目標を設定し、取り組んでまいります。

SDGs	これまでの取組み・今後の取組み
	<ul style="list-style-type: none"> AED設置 救命講習の実施 耳マーク設置 ヘルプマーク 健康経営への取り組み 夏の暑さを快適にするミストの設置 外出機会の創出(成長戦略2-1)
	<ul style="list-style-type: none"> 次世代の人材育成及び技術継承の取り組み 社員研修の充実(基本戦略2-2、基本戦略3) 大学との連携(成長戦略1-2)
	<ul style="list-style-type: none"> 女性活躍の推進(女性の登用、働きやすい環境づくり) 授乳室の設置(基本戦略2-2)
	<ul style="list-style-type: none"> 全駅トイレ改修 排水処理設備の導入
	<ul style="list-style-type: none"> LED照明の導入 車両の回生ブレーキ領域拡大による高効率化 新型車両半自動ドアの採用(基本戦略1-1) バリアフリーの推進(基本戦略2-1) 南伸による奈良方面への利便性向上(成長戦略3-1)
	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の雇用 働き方改革の取り組み 社員のスキルアップ支援 顧客サービス研修による働きがいとサービスの向上(基本戦略2-2)

SDGs	これまでの取組み・今後の取組み
	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の早期復旧対策の実施(基本戦略1-2) 駅ナカビジネス展開によるビジネスの場の提供(成長戦略1-1) A Rなどを活用した情報発信(成長戦略2-2) 商業ビル一体型の駅の検討(成長戦略3-2)
	<ul style="list-style-type: none"> 人権の尊重 多言語対応
	<ul style="list-style-type: none"> 「こども110番」 地域の美化活動やマナー啓発活動の推進 駅の情報拠点化 地域交流の拠点づくり 自然災害に対する安全性及び回復力の向上(基本戦略1-2) 駅へのアクセス強化(成長戦略1-1) アリーナ建設構想に向けた対応(成長戦略2-2) 南伸による事故等の不通時の代替ルートの増加(成長戦略3-1) 南伸による駅周辺のにぎわいづくりの貢献(成長戦略3-2)
	<ul style="list-style-type: none"> 設備の保守点検・更新作業 ホームからの転落防止のための可動式ホーム柵の全駅設置(基本戦略1-1) バリアフリーの推進(基本戦略2-1) 傘シェアリングサービスの設置(基本戦略2-2) コンプライアンス意識に基づく職務の遂行(基本戦略3) 南伸による鉄道ネットワーク強化で移動利便性向上を実現(成長戦略3-1)
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の美化活動やマナー啓発活動の推進 駅の情報拠点化 地域交流の拠点づくり 周辺施設・自治体との連携(成長戦略1-2) 結節鉄道との連携による相互プロモーション(成長戦略2-1)

8. 財務目標

財務目標

設備投資計画の実現と南伸に向けた投資への備えのために、営業活動で生み出されたキャッシュフローであるEBITDA（営業利益＋減価償却費）を財務目標とします。

項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
EBITDA	47億円	48億円	48億円	49億円	49億円
営業利益	27億円	25億円	20億円	17億円	16億円

設備投資計画

2022年度までは、更新投資により、投資額が大きくなっております。

項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
車両	10億円	30億円	40億円	-----	-----
安全投資等	28億円	35億円	29億円	11億円	22億円
南伸事業	1億円	3億円	3億円	13億円	16億円
計	39億円	68億円	72億円	24億円	38億円

アリーナ建設構想の計画が決まり次第、必要な投資を検討し実施してまいります。

長期財務目標

南伸に伴う初期投資で減価償却費などが増大いたしますが、開業後も黒字経営を維持してまいります。

(参考) 南伸開業

財務目標項目	2019年度(見込み)	2024年度	2029年度
営業収益	114億円	118億円	135億円以上
減価償却費	20億円	33億円	50億円以上
営業利益	27億円	16億円	10億円以上
EBITDA	47億円	49億円	60億円以上

8-2. 財務目標

[参考：収支予測]

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
運輸収入	109億円	110億円	110億円	111億円	112億円
その他収入	6億円	6億円	6億円	6億円	6億円
営業収益	115億円	116億円	116億円	117億円	118億円
人件費	18億円	19億円	19億円	20億円	21億円
経費	50億円	49億円	49億円	48億円	48億円
減価償却費 (a)	20億円	23億円	28億円	32億円	33億円
営業費用	88億円	91億円	96億円	100億円	102億円
営業利益 (b)	27億円	25億円	20億円	17億円	16億円
営業外損益	△3億円	△3億円	△3億円	△3億円	△3億円
法人税等	7億円	7億円	5億円	4億円	4億円
当期利益	17億円	15億円	12億円	10億円	9億円
EBITDA (a)+(b)	47億円	48億円	48億円	49億円	49億円

新型コロナウイルス感染症の影響は、含めておりません。

9. 「中期経営計画2020-2024」の実行にあたり

- 鉄道会社としてその基盤となる「安全・安定輸送の確保」を最重点目標として、事故・重大インシデント「ゼロ」をめざしてまいります。また、そのために必要な安全投資を進めてまいります。

最重点目標

事故・重大インシデント「ゼロ」(2020～2024年度)

項目	活動内容
安全投資	可動式ホーム柵の設置(2022年度まで)など

- その上で、サービスの向上、駅ナカビジネスの展開、プロモーションを通じた沿線の魅力発信に取り組み、利用者増をめざします。

項目	活動内容
サービスの向上	施設更新・資格取得など
駅ナカビジネスの展開	新規展開店舗数(8ヶ所)など
沿線の魅力発信	プロモーション、情報発信、イベントなど

- これらの取り組みを通じて、売上高の拡大と将来に向けた資金(キャッシュ)を確保してまいります。

財務目標

売上高(114億円→118億円)

EBITDA(47億円→49億円)

新型コロナウイルス感染症の影響は、含めておりません。



ありがとう30周年!
伸びゆく未来へ～